

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和8年6月11日（木）15時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・普通科高校と地元企業をつなぐ職場訪問や企業展について
- ・令和8年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」について

質疑事項

- ・普通科高校と地元企業をつなぐ職場訪問や企業展について
- ・令和8年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」について
- ・ネクストハイスクールについて
- ・高校受験の募集定員について
- ・教育における政治的中立性について

発表項目

○普通科高校と地元企業をつなぐ職場訪問や企業展について

県教育委員会では、大学進学者が多い普通科の県立高校3校を対象に、今年度新たに職場訪問を、昨年度に引き続き企業展を実施いたします。目的につきましては、事業の目的のところをご覧ください。大学進学者の多い普通科高校、いわゆる進学校におきまして、職場訪問や企業展の実施を通して、地元企業について知ってもらう機会を創出することを目的としております。人口減少対策に該当する、本年度の重点事業の1つとしての取組です。

事項2「職場訪問及び企業展の内容」でございますが、職場訪問や企業展は、今年度新たに雇用しました「高等学校企業連携コーディネーター」を活用しまして、各実施校の要望に応じた県内企業と連携して実施いたします。職場訪問では、各企業の開発や研究の様子の見学、座談会等を予定しております。

事項3「実施校」をご覧ください。6月24日に実施をいたします、四日市南高校の職場訪問、これを皮切りに、7月13日に川越高校の校内で企業展を、1月中旬には神戸高校の校内で企業展を予定しております。

県外の大学等に進学した生徒は、進学した地域の企業に就職することが多いと聞いております。そこで、高校生のうちに、三重県にはこのような魅力的な企業があるということを知っていただいて、将来の選択肢を増やしてもらうことが重要だと考えております。職場訪問や企業展を通して、進路の選択肢となる企業が、三重県内にはたくさんあるということを知ってもらい、企業に対する理解を深めることで、将来は地元に戻って、地域や社会に貢献しようとするような生徒を育てていきたいと考えております。

○令和8年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」について

県教育委員会では現在、地元食材を使った朝食メニューを子どもたちが考え、調理し、レシピを作るという「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」の作品を募集しております。子どもたちの健やかな成長には、健全で規則正しい食生活を送ることが大切だと考えております。

モニター画面をご覧ください。こちらは全国及び三重県の小中学生の朝食摂取率の推移を示すグラフです。青色が三重県の小学生、赤色が全国の小学生で、緑色が三重県の中学生、紫色が全国の中学生を表しております。

小学生につきましては、全国と三重県を比較しますと、全国の小学生の数値は、昨年から横ばいで推移をしておりますけれども、三重県の小学生は令和7年の数値が92.9%と、昨年より下がっているという状況です。

次に中学生につきましては、全国と三重県を比較しますと、三重県の中学生の数値は、全国の中学生の数値よりも高く、全国の数値はこの2年間横ばいでございますけれども、三重県の数値は令和5年度から上昇が継続しています。ただし、中学生は小学生よりも朝食摂取率が低いという課題がございますので、このような現状がある中で、今回のコンクールを通して、朝食メニューを自ら考えたり、調理したりすることをきっかけに、子どもたちが自らの食生活に関心を持って、望ましい食習慣を身につける機会としてほしいと考えております。

で、さらに地場産物を活用することで、自分が暮らす地域や、地元食材の生産者への関心を深める機会としてほしいという思いで本コンクールを実施いたします。

スライド2、コンクールの概要でございます。地元の食材を使った、子どもが自分一人で作ることができる朝食メニューを募集するということでございます。募集期間につきましては、すでに募集が始まっており、9月2日水曜日を期限としております。募集の対象は、県内の学校に通う小学5、6年生から中学3年生、特別支援学校小学部5、6年生から中学部3年生までの児童生徒を対象としております。審査方法は、審査委員会による書類選考でございます。表彰につきましては優秀賞、優良賞、努力賞を選定をいたします。応募いただいた全員に参加賞を用意しております。応募方法は、デジタル、アナログのどちらでも結構でございます。

次のスライドをお願いします。昨年度は3661件の応募をいただきました。優秀な作品はレシピをウェブサイトにて公開する予定でございます。またその中から何点かを県政だよりも掲載する予定となっております。本年度は入賞作品の中から、小学校の部、中学校の部のそれぞれ1作品を、県庁食堂で提供するという企画しております。

最後のスライドになりますけれども、こちらが本コンクールの募集ポスターでございます。本コンクールを通しまして、子どもたちが自らの食習慣を見つめ直し、地元食材について知るきっかけとして欲しいと考えております。ぜひ多くの子もたちが参加して欲しい

と考えておりますので、本コンクールの周知にご協力をいただきますようお願い申し上げます。

発表項目に関する質疑

○普通科高校と地元企業をつなぐ職場訪問や企業展について

(質) 今年実施するのはこの3校のみですか。

(答) そうですね。特にこの四日市南高校で行う職場訪問については、初めて行うものとなります。お手元にある職場訪問先10社に訪問するというので、単なる職場見学ではなく、開発や研究の様子の見学や、そこで働いている方との意見交換等の座談会を予定しています。高校生とその職場の方々との意見交換を通じて、職場での様々な話を直接聞いていただくことがキャリア形成の一つと考えています。

(質) 10社は、生徒が希望したところへそれぞれ行くことになるのですか。

(答 高校教育課) そうです。生徒が希望したところに行っていただきます。

(質) この10社は、どのような理由で設定しているものですか。

(答 高校教育課) 卒業生が就職している会社が基本となっています。将来の進路として考えられるように設定しています。

(質) 毎年学校で同じようなことを行っているのですか。

(答 高校教育課) この事業を使つての企業展については、昨年度から実施していますが、この事業を使つての職場訪問については初めてです。専門高校などに関してはこれまでやっております、大学進学者が多い普通科高校で企業展を行うのは昨年度からであり、職場訪問は今年度からということです。

(質) コーディネーターというのは、どのような人がどのような立場で、何をやるねらいがあるのですか。

(答 高校教育課) 学校と企業等を繋げる役割です。

(質) その繋げるというのが、ちょっとイメージが湧かないのですが、就職を斡旋するのですか。

(答 高校教育課) そういうことではなくて、生徒が企業を訪問する機会を設定したりするという役割です。

(質) 例えば民間企業のOBといった方ですか。

(答 高校教育課) 本県の募集要項で、かつて教員等の経験があり、学校のことがよく分かっている、企業との繋がりがあるような方としています。

(質) 訪問取材は受けるということですか。

(答 高校教育課) 提供資料の4「その他」に書かせていただいているのですが、もし取材を希望される場合は、高校教育課にご一報いただくと助かります。

(答) 今回が初めてですし、ぜひ取材をいただければ大変ありがたいです。

(質) 取材するとしたら、企業は指定されるのですか。

(答 高校教育課) 状況にもよると思いますので、またご相談させてください。

(質) 生徒さんの希望があるのですが、県として10社用意したのだけれど、ここは残念ながらゼロでしたというように、どこかに偏ったりするということはないのですか。

(答 高校教育課) それぞれのグループで行くと聞いていますので、細かな割り振りまでは把握できておりませんが、おそらく希望どおりになっていると思います。

(質) 場合によっては、生徒さんたちが希望しない会社に行くケースも出てくる可能性があるということですか。

(答 高校教育課) それはないと思います。

○令和8年度「みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」について

(質) 朝食摂取率について、令和4年から全国平均を下回ったのですね。

(答 保健体育課) 小学校はそうです。

(質) 小学生の朝食摂取率が下落している要因と、中学生に関して回復傾向であることの要因を県教委としてどのように分析されていますか。

(答 保健体育課) このような要因でということは、はっきり申し上げられない状況なのですが、全体としまして、生活様式も様々であることから、なかなか子どもたちが朝食への関心を持ちにくい状況があると考えております。今回のコンテストは1人でも作ることができる朝食メニューということですので、子どもたちに朝食への関心を持ってもらい、摂取率を上げていきたいと考えております。

(質) 家庭の生活様式というのは、例えば両親が共働きで朝食を子どもが摂る段階で、保護者が朝食を提供できる環境にないということですか。

(答 保健体育課) そうですね。そのような場合もあれば、そもそも保護者の世代に朝食を摂る習慣がないケースもあつたりします。

(質) 保護者世代での朝食を抜く傾向といったところもあるのですね。

(答 保健体育課) そうですね。

(質) 地場産物を使うとあるのですけれども、これは例えば最低でも何品入れてくださいということはあるのですか。

(答 保健体育課) 何品という決まりはなく、少なくとも1品としておりますので、審査のときに入っているかどうかという確認はしますが、子どもたちはかなり地場産物を使ったものを考えてくる傾向にあります。

(質) これはいつから行っているコンクールなのですか。

(答 保健体育課) 平成23年度からです。

(質) 優秀作品は、これまで県庁食堂で提供されたりはしているのですか。

(答 保健体育課) 新型コロナウイルスの影響で途切れていたのですが、今年度復活して行います。

(質) 県庁の食堂はお昼の時間帯しか営業していないのですが、そこにこのメニューを出す

ということですね。

(答 保健体育課) そうですね。そこに関しては難しさもあるため、食堂と相談しながら進めようとしているところです。

(質) 毎年大体 3000 点以上の応募があるのですか。

(答 保健体育課) そうですね。年によってばらつきもありますが、応募方法等も変更しながら、今年度は 4000 件をめざしていきたいと思っております。

その他の項目に関する質疑

○ネクストハイスクールについて

(質) ネクストハイスクールについて、何か見通しはありますか。

(答) 今月中に文科省のヒアリングを受け、6 月中に結果が出ると聞いておりますので、その後に発表をさせていただきたいと考えています。

(質) 発表は県教委がするのですか。

(答) それも含めてなのですけれども、県教委から文科省に申請している事業ですので、そのあたりを知事部局とも相談しながら、発表の形態を考えていきます。

○高校受験の募集定員について

(質) 先日、公立と私立の協議会をもたれたと思いますが、県教委としての方針ですとか、私立側へ教育長として何かお願いがあれば教えてください。

(答) 特に県立の方から私立の方へといったことはないのですが、この前の公私協の会議で、基本的にはさまざまな県の事情がありますので、高校の無償化でありますとか、県立高校におけるネクストハイスクールの取組でありますとか、県立私立で考えながら、募集定員をそれぞれで決めるという形になりました。

○教育における政治的中立性について

(質) 沖縄の話なのですが、文科省が配慮にかけた内容であったのではないかという見解を示した後、例えば、県内の教育現場で、教職員組合も含めてですけれども、文科省の判断に対して反発するような動きは起きているのですか。

(答) 特に今のところは聞いていません。

(質) 例えば、文科省に反発して具体的に何か動きがあるということは、今のところないですか。

(答) 私の方では聞いてはいません。

以上、15時20分終了